

法政大学大学院経営学研究科

(Graduate School of Business Administration)

研究科長の話

小川憲彦

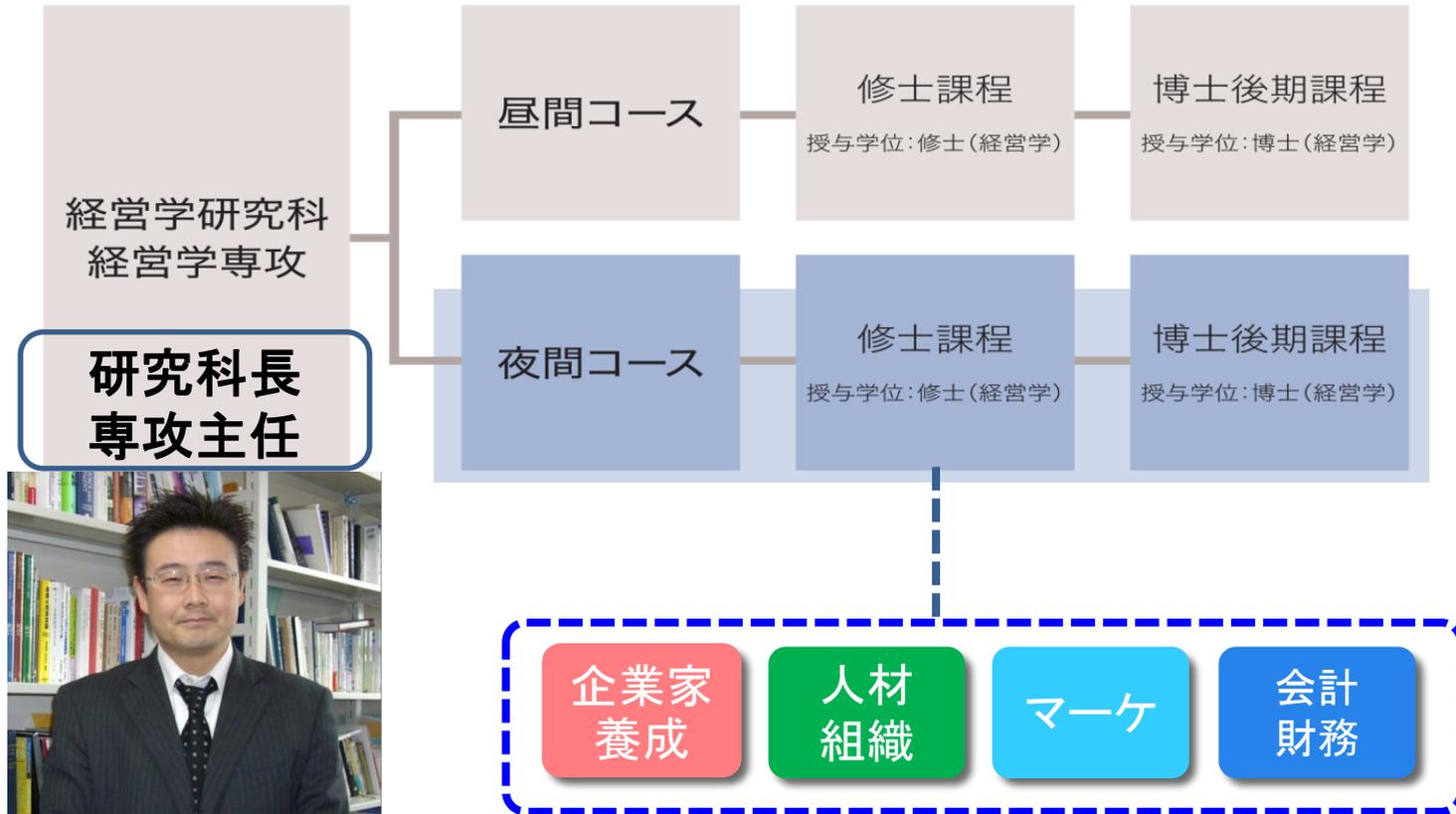
本資料の複製・譲渡・公開を禁じます



話の流れ

1. 研究科の紹介
2. 入試について
3. 学術研究と研究計画書
4. 研究計画書とその項目
5. おわりに

1.1 経営学研究科の構成



経営学研究科
経営学専攻

研究科長
専攻主任



教授 小川 憲彦
(人材・組織マネジメント・コース)

1.2 法政大学大学院経営学研究科の特徴

- 法政ビジネススクール(夜間コース)は、日本におけるビジネススクールの先駆けとして1992年に設置。1,000名近いMBA修了生を輩出。
- 多彩な講義科目の提供(Lecture)、ワークショップの実施(Workshop)、修士論文の提出(Thesis)が大きな特徴となっており、全コースで80科目以上を用意している。



- 働きながら博士号取得を目指す博士後期課程夜間コースも。
- 博士後期課程では、2016年度より、コースワーク制(ステップ制)と単位制を導入すると共に集団指導制を強化している。
- 研究者養成を主目的とする昼間コース(修士課程・博士後期課程)では、個別指導を重視した教育を行っている。ここでは、理論的なアプローチに加え、現実の企業活動や社会現象を実証的に分析するための様々な手法も学べる。

2.1 前年度入試からの変更点など

1. 従来の「一般入試」と「外国人入試」を統合し、外国国籍の方も「一般入試」で受験することになりました（「社会人入試」は、在留資格が「留学」の場合は受験できません）。
2. 昼間修士課程の筆記試験（専門科目と英語）は例年通り実施します
3. 口述試験はオンライン（Zoom）で実施します
4. 新型コロナ蔓延状況等により急な変更がありえますので、出願前に大学院のHPで最新の情報を確認してください
5. 夜間社会人の秋季入試応募者で新型コロナ等のため受験できなかった方は、春季入試での振替受験も可能です

2.2.1 社会人入試（夜間修士課程）の日程

＜秋季＞ ＊ 研修生との併願制度はありません

出願期間	2021年10月20日(水)～10月25日(月) ＊ 締切日消印有効(厳守)	
口述試験	2021年11月28日(日)	・オンライン(Zoom)で実施 ・方法や時間は個別通知
最終合格発表	2021年12月2日(木)10:00	発表方法は口述試験時に通知
入学手続期間	2021年12月3日(金)～12月10日(金)	

＜春季＞ ＊ 研修生との併願制度はありません

出願期間	2022年1月12日(水)～1月17日(月) ＊ 締切日消印有効(厳守)	
口述試験	2022年2月26日(土)	・オンライン(Zoom)で実施 ・方法や時間は個別通知
最終合格発表	2022年3月3日(木)10:00	発表方法は、口述試験時に通知
入学手続期間	2022年3月4日(金)～3月11日(金)	

秋季・春季いずれも入学検定料35,000円は出願期間内の納入が必要  法政大学

2.2.2 一般入試(昼間修士課程)の日程

研修生との併願制度あり

出願期間	2021年10月20日(水)～10月25日(月)* 締切日消印有効(厳守)	
第一次試験 (筆記試験)	2021年11月21日(日)	・専門科目90分、英語90分 ・会場は後日発送の受験票でお知らせします
一次合格発表	発表日時・発表方法は志願者のみ個別に通知します。	
第二次試験日 (口述試験)	2021年11月28日(日)	・オンライン(Zoom)で一次合格者のみ実施 ・方法や時間帯は個別通知
最終合格発表	2021年12月2日(木)10:00	発表方法は、第二次試験時にお知らせします
入学手続期間	2021年12月3日(金)～12月10日(金)	

入学検定料35,000円(出願期間内に納入してください)

2.2.3 博士後期課程(一般入試・社会人入試共通)の日程

出願期間	2021年12月8日(水)～12月13日(月)* 締切日消印有効(厳守)	
第一次試験 (筆記試験)	2022年2月19日(土) 10:00～11:30	・英語90分 ・会場は後日発送の受験票でお知らせします
一次合格発表	2022年2月19日(土)	発表方法は志願者のみに個別で通知します
第二次試験日 (口述試験)	2022年2月19日(土)	・一次合格者のみ実施
最終合格発表	2022年2月24日(木)10:00	発表方法は、第二次試験時にお知らせします
入学手続期間	2022年2月25日(金)～3月4日(金)	

入学検定料35,000円(出願期間内に納入してください)

2.4 2022年度入試の関連サイト

- ・大学院入試要項(様式等の出願書類含む)リンク

<https://www.hosei.ac.jp/gs/jukensei/applicationguidelines/>

- ・一般入試(昼間修士)の説明資料リンク

<https://www.hosei.ac.jp/application/files/2016/3177/9586/10.pdf>

- ・社会人入試(夜間修士)の説明リンク

<https://www.hosei.ac.jp/application/files/8616/3177/9585/10.pdf>

3.1 学術研究とは

- ある既存の知識体系に新たな知見を加えること
- 研究は、自分を含め世の中で知られていないことを明らかにすること、もしくは、しようとする取り組み*
- 勉強は、自分は知らないが世の中では知られていることを自分が学習すること
- 何が世の中で知られていないかを知る(研究)ためには、何が知られているかを把握(勉強)する必要がある
- つまり研究の前提に勉強があります

* 実際で言えば、知見の蓄積にごくわずかな事実の発見や事象の解釈を付け加えられればGood Job.

3.2 研究計画書とその意味

- ある期間内で実際に取り組もうとする研究を行うための方法や手順を示したもの
- 本人にとっては、具体化することで実施の見通しを確認し動機付けを高める効用や研究を方向づける効用がある
- 教員にとっては、作成者の関心、熱意、論理性等の各種能力、実行可能性等が把握できる効用がある(面接のベース情報にも)
- 2年はあっという間ですし、実質は1年もないので、手に負えるテーマであることが大切です

3.3 入試段階の研究計画書

- 修士課程は2000字程度の研究計画書の提出を伴う(口述試験はこれに基づく面接)
- 社会人受験生の多くは、社会的背景と自身の職務経験に基づく問題意識、スケジュール、文献くらい？
→ とりあえずは結構ですが、もう一段階上のものを(あるいは入学後の学習を先取って雰囲気を)
- 足りない部分は面接で確認されるが、緊張もあって質問等の意図がつかめない方も多い印象

3.4 講義の狙い

この話を聞いた後は、

- ①研究計画書で本来書くべき内容を知っている
- ②面接の意図や質問の意図がなんとなくわかる
- ③実際に書いてみる気になっている(すでに書いた方は、改善するための指針が得られている)

よくなっていることが期待されます。

4. 研究計画書の項目

4.1 タイトル(テーマ)

4.2 問題意識(大きな問い)

4.3 研究課題(個別の問い=RQ)

4.4 仮説(問いへの期待される答え)

4.5 方法(問いの解明の仕方)

4.6 研究の意義(期待される答えの意味)

4.7 引用文献

4.1 研究のタイトル≡テーマ

- ・ どのような研究なのかを簡潔に示すもの
- ・ 必要なら、どのような研究かよりよくわかるようにサブタイトルを付けてもよい
- ・ 広範すぎるタイトルは多くの場合、不適切
(ex. 謙虚なリーダーシップの研究)
- ・ 「～の研究」、「～の考察」などは基本的に不要

4.2 問題意識(研究目的と研究理由やその背景)

- ・研究で何を明らかにしようとするのか、つまり研究の目的を明示する(結論ファーストが基本)
- ・その上で、なぜそれを行うのか、行う意味があるのかを説明する
- ・学術的背景を踏まえるのが基本ですが、社会的背景や意義のみならず、(特に社会人受験生の場合)個人の経験談・背景に言及があると理解しやすい
- ・キーワードの定義引用があるとベター
- ・「どうしてこのテーマなのですか？」は世の中に重要な問題は多い中で、なぜその対象なのか、どういう背景や考え方・前提を持つ方なのか等を知ろうとする質問

4.3 研究課題 (Research Questions)

- 問題意識 (一般的な問い、大まかな関心の方向) を踏まえながら、より具体的に何を知りたいのかを「疑問形で」示したもの
- 「現代企業で求められるリーダーシップとは？」は、かなり一般的な大きい問いで問題意識のレベル。
- 研究課題は、実際に調査が実施可能という意味でオペレーショナルな水準の問いでなければいけない
- 「多様性が高いメンバーからなるチームで高い成果を上げるリーダーと、平凡な成果のリーダーとでは、行動面でどのような違いがあるのだろうか？」ならば、よりオペレーショナル ⇨ RQ たり得る
- これがバッチリ書けていれば研究は半分終わっているようなものなので、結構難しい。大きめの問いでも...

4.4 仮説

- 論文には問い(RQ)があってその答え(研究結果)がある
→ 仮説には研究課題(RQ)との対応関係が必要
- 個別の研究課題(RQ)つまり研究上の問いに対する暫定的な答え、予想の言明・命題が仮説
Ex. 「多様性が高いメンバーからなるチームで高い成果を上げるリーダーは、平凡な成果のリーダーに対し、より高頻度で部下に対して課題志向的行動をとる。」
- 仮説は、研究を通じて得ることが期待される答えでもある
- 面接では、どういう考えや前提を持っているのか尋ねられるかもしれない
「それを調べることで、どんなことが言いたいのですか？」

参考. 理論仮説と作業仮説(操作仮説)

- ・理論仮説は概念間関係の言明、作業仮説は変数間関係の言明
 - ・「学習モチベーションが高い学生ほど学力が高い」なら理論仮説
 - ・「一日の学習時間が多い学生ほどGPAが高い」が、その作業仮説
 - ・仮説発見的な研究の場合でも、まず考えてみる
(言おうとしていることが興味深いか、意義があるかを考えるために言葉として客体化してみる)
 - ・入試段階では理論仮説で十分だと思いますが、質問では、どうやって測定(把握)するのかを尋ねられるかもしれない
- Ex. 日本企業のマネジメントが劣化している、という主張をする
応募者に、「マネジメントの劣化とはどういう現象ですか？
どう
いう点でそう感じるのですか？」

4.5 方法(データの種類と分析方法)

- RQを明らかにするために、あるいは仮説を検証するために、
①どこの誰から、②どのようなデータを、③どうやって収集するのか、また④そのデータをどう分析するのか、を示す
- それらの見通しが立たないRQは、自分の手に負えない可能性が高い
- 知りたいことに対し、妥当(適合的)な対象・データや分析方法であることが重要
- 文献を読む、企業でアンケートをする、というものが多いので、実施可能かどうかを推測するために具体的に尋ねる
ex.「どこで調査をされるつもりですか?」「対象はどのような会社をお考えですか?(それは適切なのでしょうか)」

4.6 研究の意義（追々でOK）

- ・以上から導き出された研究成果は（もし仮説が支持されたならその仮説には）、どういう意味があるのかを（経営学の場合）大きく2つの観点から説明する
- ・学術的貢献は何か（どの分野でも必要）
その結論・知見が得られたら既存の（経営学の）知識体系に新たに何を加えられるのか
- ・実践的貢献は何か（経営学は応用分野）
その結論・知見が得られたら経営の実践にとって（あるいは社会的に）どのような意味があるのか

4.7 引用文献(学習度が推測できる)

- 研究は知識体系(知識の蓄積)に新たな知見を加えることなので、過去の知見へのリスペクトとともに、読者のためにも後進の研究のためにも根拠や出典を必ず示します。
- その示し方もまた研究の技術なので、手本(プロの論文)を真似て正確にABC順に並べる

博士を目指す方は『APA論文作成マニュアル』等参照

- 修論を書き上げる時には、無数を列挙するより、重要な(学術的)文献を押さえておけるように(些末な調査や一般書ではなく)
- Webからの引用はURLと検索日時を示す
- なお、この研究計画書の書き方は、大学院時代に師事した金井壽宏教授(神戸大学大学院経営学研究科)の指導をベースに、私なりのプラス・アルファや解釈を加えたものです。もちろん、ありうべき誤謬はすべて小川本人に帰属します。

5.1 講義の狙いの振り返り

この話を聞いた今、

- ① 研究計画書で本来書くべき内容や項目をとりあえず知っていただけましたか？
- ② 面接では、どういう意図でどんなことを尋ねられそうか、なんとなく予想ができそうですか？
- ③ とりあえず実際に書いてみる気になっていきますか？
(すでに書いた方は、改善できそうですか？)

YESであれば嬉しいです。

が、ゼミでの指導を通じて徐々に、今日お伝えしたことが腹落ちするようになってきていると思いますので、今、あまり深刻にならなくて結構です。

5.2 研究計画書を書くためのチップス

- いつ、どこに出願するつもりか決める
(目標を具体化することで動機付けを高める)
- 可能なら修士論文(後期課程希望者は博士論文)を実際に読んでみる
(ゴール・イメージや水準をつかむ)
- とりあえず1本、プロの学術論文を読んでみる
(ビジネス書やノウハウ本ではなく)
- 現時点の研究計画書を「まず書いてみる」(笑)
(項目の小見出しをまず並べてみる)

5.3 心配になった方へ

- 最初からうまくは書けません。入試段階でバッチリである必要もありません(最低5年?)。
- しかし、書かないと書けるようになりませんので、まず書きやすい部分から書いてみましょう
- 今日から知的トレーニングを始めましょう。手を動かして「脳から汗を流しましょう」!
- 入学後は指導教員がうまくできるよう、指導していきま
すからご安心を。そして、ともに学ぶ仲間は励みになります。

お疲れさまでした

- 本日はお付き合いいただき、どうもありがとうございました。
- 皆さまにとって、少しでも意味がある時間であったことを願っております。
- 新年度、皆さまと共に学びあえることを心待ちにしております。